

職業実践専門課程の基本情報について

平成28年10月1日現在

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
国際医療福祉専門学校 七尾校		平成19年3月27日	宇野 弘之		〒926-0816 石川県七尾市藤橋町西部1番地 (電話) 0767-54-0177	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 阿弥陀寺教育 学園		昭和61年3月17日	宇野 弘之		〒290-0011 千葉県市原市能満字崩山1554-4 (電話) 043-208-1600	
目 的	本校理学療法学科は保健福祉の中核を担い、EBPT（根拠に基づいた理学療法）をベースとして個々のニーズにあったサービスを提供し、科学性と人間性を備えた理学療法士の育成を目的とする。また、スポーツや介護など幅広い領域の授業を配し広い視野を持った専門家を育成する。					
分野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	理学療法学科	3年(昼)	2,955 時間 (114 単位)	平成21年文部科学省 告示第21号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1,215 時間 (65 単位)	0 時間 (0 単位)	0 時間 (0 単位)	1,740 時間 (49 単位)	0 時間 (0 単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
105 人		65 人		5 人	42 人	47 人
学期制度	■前期： 4月1日～9月30日 ■後期： 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ■成績評価の基準・方法について 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2(実習においては5分の4)に達しない者は、その科目については評価を受けることができない。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月8日～8月26日 ■冬 季：12月19日～1月3日 ■学 年 末：3月6日～3月31日			卒業・進級 条件	全科目単位認定(114単位、2,955時間)を受け、かつ校長が卒業を認めたもの。	
生徒指導	■クラス担任制 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に面談を実施し、長期欠席時においても学生の状況等の把握に努め、学生の課題の解決への支援を行っていく。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、地域交流活動 ■サークル活動 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)	

主な就職先	■主な就職先、業界 病院、老人保健施設 ■就職率*¹ 100 % ■卒業者に占める就職者の割合*² 76.7 % ■その他 就職以外は大学院進学等 (平成27年度卒業生に関する平成28年10月時点での情報)	主な資格・検定	理学療法士国家試験受験資格 初級障害者スポーツ指導員資格
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 ■中退率 6.0 % 平成27年 4月 1日在学者 100 名 (平成27年 4月入学者を含む) 平成28年 3月31日在学者 96 名 (平成28年 3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 成績不振、就職希望 ■中退防止のための取組 <ul style="list-style-type: none"> ・入学後早期の合同合宿などの行事による学生間交流の促進を図る ・年5回(4月、6月、9月、11月、2月)の定期的な学生個人面談の実施による密な学生把握 ・学生主導による学習グループで、定期試験・国家試験対策の勉強を行う。 		
ホームページ	URL: http://www.kifs-nanao.ac.jp/		

* 1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就業者の割合をいい、調査時点における就職希望者数で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者数」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

* 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、史学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

* 2 「学校基本調査」定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者としな（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育理念は、教育基本法及び学校教育法に基づき専修学校教育を行い、専門職として必要な知識及び技能を教授し、社会に貢献できる人材を育成することである。

理学療法学科は、上記の教育理念に則り、現状に沿った最新の専門知識・技術等の習得、地域社会を視野に入れた専門性の獲得を目的として非常勤講師の専門授業や臨床現場での学外授業を積極的に展開するとともに、学生の勉学に対する内発的動機を高められる授業内容・方法の検討を基本方針とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 10 月 1 日現在

名 前	所 属
三和 勘太	国際医療福祉専門学校七尾校・副校長
由久保 弘明	国際医療福祉専門学校七尾校・理学療法学科長・教務委員長
大角 幸治	国際医療福祉専門学校七尾校・教務委員
北谷 正浩	公立羽咋病院リハビリテーション部・士長(石川県理学療法士会副会長)
織平 秀一	公立能登総合病院リハビリテーション部・主任

(開催日時)

第1回教育課程編成委員会	平成 28 年 7 月 29 日 18:00~19:00	実施
第2回教育課程編成委員会	平成 29 年 2 月 20 日 18:00~19:00	実施(予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

現状に沿った最新の専門知識・技術等の習得、臨床現場を想定した応用力の習得、臨床現場や対象者との関わりをとおした臨床イメージの構築の機会を学生へ提供できるように、病院・施設との連携を密におこなっていく。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床見学実習	理学療法が行われている病院・施設を見学し、職業人としての準備性と専門職として意欲的に取り組む姿勢を習得する。	公立能登総合病院、市立輪島病院、金沢医科大学病院 他
臨床評価実習	理学療法評価を4週間の臨床実習を通して包括的に体験し習得する。	公立能登総合病院、市立輪島病院、金沢医科大学病院 他
総合臨床実習Ⅰ	理学療法評価および治療技術を8週間の臨床実習を通して包括的に体験し習得する。	公立能登総合病院、市立輪島病院、金沢医科大学病院 他
総合臨床実習Ⅱ	理学療法評価および治療技術を8週間の臨床実習を通して包括的に体験し習得する。	公立能登総合病院、市立輪島病院、金沢医科大学病院 他

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の職員研修規程は、国際医療福祉専門学校七尾校就業規則第86条の規定に基づき、職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な職員の能力、資質等を向上させることを目的とする。また、研修の効果を高めるために計画的な研修実施及び研修報告をおこない、職員全体の自己啓発の意欲の向上を図る。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年10月1日現在

名 前	所 属
中川忠司	七尾市役所 健康福祉部福祉課 次長
奥井敦士	社会福祉法人七尾市社会福祉協議会
椿原達也	医療法人社団持木会 柳田温泉病院 (理学卒業生、同窓会長)
伊藤邦夫	理学保護者、後援会長
橋向正人	公立能登総合病院 (理学卒業生)
加藤孝之	富来病院 (作業卒業生、同窓会副会長)
大松大洋	各務原市消防 (救命卒業生)
法乗未来	公立つるぎ病院 (介護卒業生)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.kifs-nanao.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.kifs-nanao.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			基礎数学	基礎数学を通して作業療法・理学療法に必要な力学的分野を中心に講義を行う。また、日常生活における物体間の相互作用、物体の持つエネルギー、物体における力のつりあいの理解習得及び演習に重点を置く。	1 前	15	1	○		
○			生命倫理学	人間の尊厳と自立、介護にける尊厳の保持・自立支援について学習する。	1 前	15	1	○		
○			ボランティア論	ボランティアに関する基本的な知識を深め、医療・介護におけるその役割と意義を理解する。さらにボランティア活動、また、それを受け入れる場合の双方の立場から、必要な教育や組織運営のあり方などを学習する。	1 後	15	1	○		
○			人間関係論	コミュニケーションの技術について、講義及びグループワークを通じて学習する。	1 後	15	1	○		
○			心理学入門	人間の心のしくみと行動を通して、人間理解の基礎を学ぶ。	1 前	15	1	○		
○			教育学	職業人として、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて伝達できる能力を身につける。	1 前	15	1	○		
○			英語会話	様々なテーマについて、賛成、反対の英語表現を学ぶとともに、自分の意見をまとめ、相手の意見を理解する練習を通して、ディスカッションやディベートができるようにする。	1 前	30	2	○		
○			医学英語	臨床で使われている医学用語を学ぶ。	1 後	15	1	○		
○			情報科学	基本的なパソコンの設定から電子メール、ワープロ、表計算、プレゼン等のアプリケーションソフトの使い方を学び、電子カルテの基本的な操作まで学ぶ。基本的なマナーを確認しながら授業を進める。	1 前	30	2	○		

○			運動科学	人間にとって運動の必要性和スポーツがからだに働きかけてその能力を考えていく知識、方法等を科学的な事実を通して学んでいく。	1 前	30	2	○		
○			運動科学実習	生活に必要な基礎体力を養い、運動する上での必要な持久力、スピード、筋力を高める。また、運動を通して協調性を養い、円滑な人間関係を築くことができるように授業を実施する。	1 後	30	1			○
		○	公務員試験対策講座	最近の出題傾向を中心に地方初級試験に的を絞り着実に実力が付くよう概説する。	2 後 3 前	60	4	○		
○			解剖学Ⅰ	内臓学、感覚器、骨関節、筋を中心とした身体の構造を学ぶ。随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。	1 前	60	4	○		
○			解剖学Ⅱ	神経学を中心とした身体の構造を学ぶ。随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。	1 後	30	2	○		
○			解剖学実習	骨学、関節靭帯学、筋学を中心とした身体の構造を学ぶ。常に他の機能との関連性を念頭におき、人体模型を使つてのイラスト・スケッチを行う。また、触診、単語帳作成をとおして解剖学的知識を深める。	1 前	60	2			○
○			生理学	人体機能のメカニズムについて理解を深め、リハビリテーションに必要な生理学の基礎知識を学ぶ。	1 後	60	4	○		
○			生理学実習	生理学の講義で得た知識を各実習によってより深めることを目的とする。実習内容は班毎に分かれて心電図、バイタル測定、表在感覚・深部感覚、呼吸機能検査、運動神経伝導速度・深部反射・筋電図の各課題を遂行する。	1 後	60	2			○
○			運動学	運動に関する原理・理論を理解し、身体の構造と機能の知識を深める。また、運動学で得た知識を用いて運動障害の分析ができるように授業を展開する。	1 後	30	2	○		
○			運動学実習	実習内容は班毎に分かれて、生体観察と機能解剖学、生体力学の基礎と筋力、運動分析と運動学的分析、姿勢、着衣動作分析の5つ課題を遂行する。正確な観察とデータの収集をして、実習結果を科学的な報告書としてまとめる。	1 前	60	2			○
○			臨床心理学	障害者自身の心理的問題、治療自体に内在する心理的問題や介護家族に関する心理的問題を理解する。	2 前	30	2	○		

○			人間発達学	胎児期から老年期に至る発達段階について身体的、知的、情緒的、社会的な側面等様々な角度から理解し、理学療法、作業療法を行ううえでの参考となるよう検討していく。	1 前	15	1	○		
○			保健医療福祉概論	日本国の社会保障制度や社会福祉制度について理解する。	1 後	15	1	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションはその中で高齢社会における社会的関心から、科学技術の高度な発展から、ともに影響を免れ得ない。そのような中でのリハビリテーションについて学習する。	1 前	15	1	○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基礎を修得する。	1 後	15	1	○		
○			内部障害学	専門職に必要な内科学的知識について学ぶ。	2 前	15	1	○		
○			骨関節障害学	医療専門職に必要な整形外科的知識を、各論を通して病態と診断、治療について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			神経筋障害学	疾病の原因および形態的变化を、主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			発達障害学	小児疾患の理解に必要な、基本的な症候や疾患の知識について学ぶ。	2 前	15	1	○		
○			病理学	疾病の原因および形態的变化を、主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			精神障害学	疾病の原因および形態的变化を、主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。	2 前	15	1	○		
○			画像診断学	画像診断を行うための様々な検査法（単純・造影X線写真、CT、MRI、超音波検査、血管撮影など）の原理と臨床応用の実際について学ぶ。	2 後	15	1	○		
○			薬理学	我が国における理学療法の歴史と現状、理学療法士の役割を学習し、理学療法のイメージを明確にする。 専門課程における理学療法学履修のための導入科目として、理学療法総論を講義する。	2 前	15	1	○		

○			理学療法学概論	専門課程における理学療法学履修のための導入科目として、理学療法総論を講義する。	1 前	15	1	○		
○			基礎理学療法学	本講義の目的は理学療法の枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法が構築できる能力を養うことである。また、理学療法に必要な解剖学、分子生物学、運動生理学といった基礎医学を学ぶことで、科学的な観点から理学療法の効果やその機序を理解できる。	1 前	30	2	○		
○			理学療法学セミナーⅠ	(一般目標) ・2年生の実施している内容を見学し、評価の意義を理解する ・前期に学んだ解剖・生理・運動学の知識を復習する (行動目標) ・メモをとり、見学した内容をデイリーノートに記載することができる ・見学した内容に即した自己学習ができる	1 後	60	2			○
○			理学療法学セミナーⅡ	客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、理学療法評価実施にあたっての必要な態度・心構え・評価技術について学習する	2 後	60	2			○
○			理学療法学セミナーⅢ	国家試験対策として4分野 (①基礎医学、②臨床医学、③PT 基礎、④PT 治療学) をテーマ別にグループワークする。 学内模擬試験および全国模擬試験をとおして国家試験への準備を行う。	3 後	90	3			○
○			理学療法研究法Ⅰ	本講義では研究の意義について考えるとともに、卒業研究を見据え研究計画の立案方法や研究を進める上で必要な基本的な知識について学ぶ。	3 後	30	1	○		
○			理学療法研究法Ⅱ	理学療法研究テーマ別にグループワークで文献的考察を行う。	3 後	60	2	○		
○			理学療法評価学	理学療法における評価の枠組みを理解し、心身機能と構造の評価に関する知識と技術を習得する	2 前	60	2	○		
○			理学療法評価学実習	理学療法評価の考え方と計測方法を実践的に学ぶ。各評価の関連性を身につけ、全体像を把握する。	2 後	60	2			○
○			動作分析学	本講義では1年後期の動作分析学の内容を踏まえ、疾患・障害別の動作分析学について学ぶ。	2 前	30	1	○		

○			運動療法学	理学療法のもっとも大きな柱として運動療法は位置づけられているが、基本になっている知識は解剖学、生理学、運動学である。本講義ではそれらの基礎を復習しながら、代表的な運動療法の理論を学び、できるだけ実践的な例を挙げて講義する。	1 後	30	1	○		
○			運動療法学実習	理学療法士として社会に出て活躍するために必要な運動療法の知識、技術を、実習を通して習得する。	2 前	60	2			○
○			物理療法学	物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。	1 後	30	1	○		
○			物理療法学実習	物理療法における疼痛抑制、温熱、痙攣抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。また、臨床技法として各種疾患に対する適用をシミュレーションする。	2 前	60	2			○
○			義肢装具学	義肢装具の基礎知識を身につけ、理学療法士としてのチェックポイントをしっかり押さえる事ができるよう講義していく。	1 後	30	1	○		
○			義肢装具学実習	実際に、義肢や装具を使用して、チェックポイントを理解できるようにする。短下肢装具の作成を行う。	2 前	30	1			○
○			発達障害理学療法学	1. 正常運動発達を理解することで、神経発達の発達機序、意義を学習する。 2. 脳性麻痺をはじめとする発達障害児の臨床像を理解し、理学療法における評価、療育への関わりを学習する。	2 前	30	1	○		
○			発達障害理学療法実習	前期の講義をもとに、発達段階に応じた治療方法や考え方を実習する。	2 後	30				○
○			骨関節障害理学療法学	骨関節疾患に対する理学療法の評価・治療の内容を総論と各論に分けてその基礎知識と標準的な臨床技術・応用の理解を深める。	2 前	30	1	○		
○			骨関節障害理学療法実習	骨関節疾患症例を課題とし、各症例に対して理学療法評価・治療プログラムを立案する。	2 後	90	3			○
○			中枢神経障害理学療法学	脳卒中を中心として、中枢性疾患の特徴、診断、検査方法、リハビリテーションの実際を講義する。	2 前	30	1	○		

○		中枢神経障害理学療法学実習	中枢神経疾患の特徴、診断、検査方法、リハビリテーションの実際について実技を通して学ぶ。	2 後	90	3			○
○		内部障害理学療法学	呼吸・循環・代謝疾患の理学療法の基礎と臨床について学び、リスク管理に必要な知識を身につける。	2 前	30	1	○		
○		内部障害理学療法学実習	呼吸器理学療法と心疾患リハビリテーションの評価・治療技術について学び、リスク管理に必要な知識を身につける。	2 後	30	1			○
○		神経筋障害理学療法学	神経・筋障害における理学療法の治療技術、適応とリスク、治療効果を解説する。また、神経・筋障害の病態像についても解説する。	2 前	30	1	○		
○		神経筋障害理学療法学実習	神経・筋障害における理学療法の評価・治療技術、適応とリスクについて実習する。	2 後	60	2			○
○		日常生活活動学	理学療法におけるADLの位置づけ、ADLの運動学的分析、ADL評価の実際と疾患別のADL指導について講義する。	1 後	30	1	○		
○		日常生活活動学実習	日常生活動作の評価および指導の実際について疾患別に演習する	2 前	30	1			○
○		生活環境学	障害者や高齢者を含むすべての人の生活が、心身ともに健康で文化的であるようその質の向上を図っていくために、専門職として必要な知識や技能を習得する。	1 前	15	1	○		
○		言語療法学概論	言語聴覚療法についての知識を学び、言語聴覚療法の基本と論理について理解する。また、ST対象となる疾患および障害について学ぶ。	2 後	15	1	○		
○		作業療法学概論	作業療法とは、実際にどのような仕事をする専門職なのか、どのような対象者に行われるのか、その業務、役割について学ぶ。	1 前	15	1	○		
○		地域理学療法学	本講義では、高齢者に対するリハビリテーションや介護予防の取り組みについて学ぶ。	2 後	15	1	○		
○		臨床見学実習	臨床における理学療法士の役割を、見学実習を通して包括的に体験する。また、医療従事者としての基本的態度を学ぶ。	1 後	45	1			○

○		臨床評価実習	臨床での評価技術を 4 週間の評価実習を通して包括的に体験する。	2 後	135	3			○
○		総合臨床実習 I	理学療法評価および治療技術を 8 週間の臨床実習を通して包括的に体験し習得する。	3 前	315	7			○
○		総合臨床実習 II	理学療法評価および治療技術を 8 週間の臨床実習を通して包括的に体験し習得する。	3 後	315	7			○
合計				68 科目	2,955 時間		(114 単位)		